

2015.7.17.

(1)

# おおい図書館

## No.178

発行 おおい図書館  
 代表 青木 和子  
 松本市牧の原1-10-416  
 TEL 047-311-0886

6月6日(土)  
 浦安市立中央図書館を  
 見学しました

★図書館の「レファレンスサービス」とは、情報や資料を求めている利用者に対し、図書館員が図書館の資料と機能を活用して資料の検索を援助し、必要な情報や文献を紹介または提供する個人的援助のこと。



イギリス在住 山本光子

私は一時帰国の度に「おおい図書館」の図書館見学への参加を楽しみにしているが、なぜか縁が無い。今回は、昨年の県立西部図書館

館に続いて参加できた。場所は浦安市立中央図書館。書きたい事はたくさんあるが、以下の点にしぼる。

「すばらしい」と聞いていたが、館内の開架スペースに入るなり、室内の明るさに目を見張った。両側は大半がガラスで、書架の高さは5mくらい。背の低い私でも書架の本のタイトルを通常の首の動きで簡単に確かめられる。英国のスーパーマーケットで背の高い客を見つけて上の棚に乗っている商品をとって貰うように、他人を煩わして本を手にするという必要もない。蔵書云々の前に、図書館の造りにまず感服した。

公共図書館は、市民の文化程度を反映するものだと思う。松戸の図書館の貧弱さは、歴代市長の知性のバロメーターに過ぎないことを知った。市長に町づくりのウィジョンがあれば、図書館も町づくりの一環として素晴らしいものができることを、今回の見学で案内役をして頂いた常世田氏の説明から感じる事ができた。

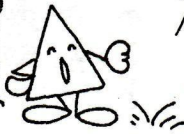
私は、松戸の図書館で時間つぶし・頭休めの本が見当たらない時には、松戸市に隣接している葛飾区立図書館に足を運んで借りてくる。しかし、浦安図書館の蔵書を目の前にして、それは、時間と交通費の無駄遣いであることが分かった。図書館ネットワークを利用して、千葉県内の図書館を自分の町の図書館のように使えばよいのだ。残念ながら、これに気がついたのは見学が終わる頃で、「この本、読みたい！」と思ったものかかな



りあったが、書名をメモってなかった。この方法を使えば、松戸図書館の貧弱な蔵書数でも、我々市民が実際に手にできる本の数は十数倍に増える。

とは言え、羨望の一語に尽きろ図書館見学であった。

図書館はメディアだ!



市議会議員 増田薫

初めて浦安図書館の見学に行きました。しかも、元浦安図書館長の常世田良先生の案内付き。何と贅沢な見学会でしょう!

始めに、新浦安駅の「図書サー

ビスコーナー」を外から見ました。

市内の3つの駅すべてにも設置されていて、朝7時から夜9時まで、借りたい本の予約と貸出し返却を

しています。また、シルバー人材センターの人が受付と整理を

しているので、人件費も節約しています。この取り組みをしている自治

体は、全国でもあまり無いようです。駅のロータリーに面した所にあるので、場所が分かりやすくして便利。無人の返却ポストの一本先を行っていただけます。松戸市内の駅にも、せめて返却ポストくらいは設置したいですね。さて、目的の浦安市立中央図書館へ。

「図書館はメディア。大人の

ためにこそあるのだ。」と、常世田先生は仰います。「大人に

こそ、インターネットの薄っぺらな情報ではなく、真の情報の

提供とアドバイスが必要だ。そして、何でも相談して良いのが

図書館。その機能こそが図書館の役割だ。」と。

その相談場所「レファレンス室」には、10年以上の経験を積んだ専門の司書の方が常駐し、

暮らしのお困りごとから政治活動まで、ありとあらゆる相談に

乗ってくれるんです。また、市議会議員ごとに議会レポートがフア

イリシグされていられるのも見ました。ここでアドバイスを受ければ、非常に充実した一般質問ができるかもしれない。

情報と言えば、アメリカでは

一般的には大金を出して入手するデータベースも、図書館カードが

えあれば、誰でも入手できるようです。うーん：アメリカは、さらに先を行っているようです。

松戸市は48万の人口を抱える大きな自治体でありながら、なぜ近

隣の市のような充実した図書館が無いのか？本当に残念。声に出さな

くても望んでいる市民は絶対に多いと思います。「おい図書館」

の皆さんは20年以上も、その夢を見続けて活動されてきたのです。

頭が下がる思いです。

松戸市に、大人がワクワクするような、大人の好奇心をくすぐり、



向上心を高めるような、質の高い図書館の建設は、一体いつのことでしょうか！



市議会議員 松尾ひさし

この度は、浦安市立中央図書館の視察に参加させて頂き、私自身とても勉強になり、また、今までの図書館像が大きく変わり、更に視野を広げることができました。本当にありがとうございました。

今回、この視察に参加させて頂いたのも、松戸市6月定例議会におきまして、私の一般質問の中で「図書館カウンター（窓口）を駅周辺に開設できないか。」と訴えさせて頂き、本市と致しまして、「松戸市図書館整備計画」として目指すべき図書館像の実現に向けてスタートしたからであります。

この計画策定の背景・目的の中には、「これからの図書館は、従来の貸出し中心の機能だけにとどま

らず、高度化・多様化する課題に対応し、知の拠点、生涯にわたる学びを支える拠点、地域コミュニティを支える情報拠点、また、交流から生まれる地域文化の創造と発展の拠点として、様々な役割が担えるよう機能の充実や強化を図る必要があります。」と謳われており、まさに浦安市立中央図書館が、その拠点としての役割を果たされていることに驚きました。特に感銘を受けたのが、レファレンスサービスへの充実です。10年・20年と経験を積まれた司書の方だからこそ対応できるサービスであり、図書館の持つべき機能を大きく広げることができると感じました。

また、浦安市内にある3つの駅前に、それぞれ図書サービスコーナーがあり、今回の議会で提案させて頂いた内容が、すぐ

に行われていたことにも驚き、改めてその必要性を実感させて頂きました。

その他にも、あらゆる面で松戸市にも取り入れていきたい取り組みが多く、これから市民の皆様方にとって、より良い図書館構築に向けて微力ながら懸命に取り組みで参ります。

行きたくなる図書館を！



一昨年、市議会の研究会で常世田良氏から「浦安市の図書館は働き盛り世代のビジネスマンが良く利用している。図書館に気になることや探したいものを相談すれば、情報を提供してくれる。」という話を聞き、私の図書館へのイメージが変わりました。

今年6月6日、願ってもない常世田氏のガイドによる浦安図書館訪問に、喜んで参加しました。



ない。

「松戸プライド・愛して溢れる図書館を、わが街に！多謝。」



市議会議員 関根ジロー

「おいしい図書館」の会報No.174によると、松戸市の図書館行政のサービス指標は、千葉県内でびくびくするほど下位に低迷している。

具体的には、一人当たり貸出冊数479冊(600冊)／蔵書冊数119冊(147冊)／図書費127円(170円)だ。(カッコ内は県内平均)

一方で浦安市は、一人当たり貸出冊数1266冊／蔵書冊数75冊／図書費508円で、松戸市との格差が著しい。今回、常世田さんにご案内頂きながら「おいしい図書館」の皆さんと一緒に浦安図書館を視察する機会を得て、浦安図書館の様々な先進的な取り組みを知ることができた。この視察を活かし、松戸市の図書館行政のさらなる充実に向け

て、取り組みたい。



市議会議員 DELI

浦安市の図書館の大きな特徴の一つとして、調べ物を司書が手伝ってくれる「レファレンス室」がある。

ここでは、今日の夕食はどうしよう？というような事から、リストアップされそうなんだけど、何か良い再就職先はないだろうか？という事まで相談に乗ってくれる、まさに「よろず相談所」で、図書館が地域の中で担う役割は、ただ単に本を貸し出すというだけではなく、生涯学習の中心として率先して風土づくりに参加したり、出会いの場になったりと、多岐にわたるという事が分かりました。



島佳枝

6月6日(土)、浦安市立中央図書館の見学に参加しました。「おいしい図書館」の会員になって5年。漸く念願が叶いました。

私は、5年程千葉県内の小中学校で学校図書館の仕事をしていましたが、その当時の研修で、浦安市立図書館の先進的な建物と画期的な取り組みを知りました。当時も見学会が行われましたが、参加できず残念な思いでしたから、今度こそは、という気持ちで参加しました。

今回は、初めて浦安図書館を見学される6名の議員の方々が勉強されるということで、常世田先生が案内して下さい、浦安の街づくりの歴史から図書館の活動まで幅広いお話を伺うことが出来ました。江戸時代には旧江戸川・利根川から引き込んだ運河を中心に街は栄え、比較的知識レベルの高い人が



多かつたそうだ。現浦安市の3分の2は埋立て地で、当初から行政指導が入り、住宅の広さが確保され、電線の埋設率が国内1、2位でもあり、今の様な整った街づくりが出来たなどのお話が、私には面白かつたです。

先ず、新浦安駅に隣接したビル一階のガラス張りの「図書サービスコーナー」に立ち寄りました。浦安市にある3つの駅（他に舞浜・浦安）にも「行政サービスセンター」があり、市民は出勤の行き帰りに本の貸出し返却ができます。他に、7つの分館があります。

中央図書館は60台分の駐車スペースがあり、エントランスは品川水族館を連想する透明なアーチ型屋根で、館内は全てバリアフリー。防犯に配慮して、夜7時以降は来館者の利用スペース以外は施錠され、エレベーターも朝までは停止。勉強室は中規模。居心地良し。

な椅子とテーブルが館内に良い間隔で配置され、心地良い雰囲気にすっかゝ羨ましくなりました。土曜日にしては来館者は少なめとの説明でしたが、図書館全体に活気を感じました。

「図書館報」を3冊頂きました

た。年に4回位出しているのでしょうか。サービス状況がとてもしっかり易い冊子です。貸出・リクエスト・レファレンス・子どもと親へのサービス・集金行事・ハンディキャップサービスの報告を数字で紹介。ハンディキャップサービスでは、市内の2つの病院へ団体貸出をし、職員が週一回出向いて本のリクエストと相談を受け付け、刑務所にも適切な本を提供しているとのこと。市民への還元率は高く、一世帯あたり5万5874円。図書館報No.80はレファレンスサービス特集で、ビジネス情報・新聞バ

ックナンバー・データベースなどの様に使い進めれば良いかが解り易く紹介され、図書館を身近に使いこなせるのではないかと思えました。浦安ではビジネス支援のレファレンスのニーズが高いようですが、どの様な事を・何を調べたいのかという問題の基から相談に寄り添い質の高い情報を提供できる専門司書が常駐し、34名の正規職員全員が司書の有資格者だそうです。

今回の見学会では、行政が図書館を通して提供する最大のサービスは質の高い情報提供だと知りました。松戸市も都内で働く人々のベッドタウンですから、必要を図書館サービスは浦安市と似ていると思います。こんな図書館が松戸にも出来れば！の思いを強くして帰りました。

私達松戸市民が誇れる図書館の完成を期待しています。





土曜日の午前中で、特に「えほんのじかん」や講演会がない時間帯にもかかわらず、大きな館内は静かなのに中高年の男性や女性の方が多く、其々のブースのところ  
で本を読んだり探したり、レファレンス室でも50歳前後の男性が、係員の方に調べ物が何か相談をされていました。

今回新たに認識できたこととして、浦安市の8つの図書館には庶務を含めて34人の正規職員全員が司書の資格があり、プロとしてスキルアップし、専門職として20〜30年勤続していること。図書館に配本される本は、書店共同組合の人が来て装備を行い、本などの売り上げが書店組合と一本化していること。市内の3つの駅にある「図書サービスクーナー」では、ネット上で予約した本を貸借できること、があります。  
松戸市の図書館の充実したサー

ビスに向けて、まず司書の資格を増やして、多くの市民の方が利用したくなるような図書館にしていくことが必要と考えました。



県議会議員 安藤じゅん子

日本は、人口減少社会に突入した。これまで人口増としていた制度設計は、役に立たない。人びとは、常に学び、知識を更新していく必要性がある。そこで大きな役割を果たす空間が「図書館」である。私は、生まれてから今まで、幾度、幾箇所かの図書館を訪れたことだろう。「本の森」での深呼吸は、まさに魂の蘇生。

「おーい図書館」のお誘いで浦安市立中央図書館訪問の機会を頂いた。常世田良立命館大学教授のご案内で図書館へ向かう。新浦安駅前前のサービスセンター

で、先ずサラリーマンの利用率を上げる工夫を目的にした。続いて、中央図書館入口で、30年前の建設にもかかわらず、駐車場から段差ゼロのバリアフリーに驚く。さらに、全職員が司書資格を有し、20年間も移動のない専門司書がレファレンス室に常駐する。多くの老若男女が、書店ではなかなかお目にかかれぬ本に目を落としていく。

仕事の都合で、後ろ髪を引かれながら、図書館を後にした。

その後、時間を経て、私の図書館で感じた感覚は一体なんだったのか、ふと想起した。それは、まさに「フライト」と「愛」

折しも松戸市では、図書館整備計画審議会が開催されている。最高の図書館を作る。そして、最高であり続けるために、絶え間なく投資・改善を行う。費用対効果の物差しで図書館を計ってはなら